

主 題：国民としての責任 2

聖書箇所：ペテロの手紙第一 2章13－17節

私たちが救われた目的、それは神のすばらしい救いのメッセージを人々に伝えるためだとすでに学んできました。人々が救いに至るために、私たちは今日という一日が与えられ、その任務を受けて様々なところに遣わされているのです。このメッセージをどのように伝えてゆくのか、もちろん、ことばをもって伝えてゆくのですが、ペテロが私たちに教えたことは、私たちがどのような時にも、悪を避け善を行ってゆくようにということでした。2：11、12でそのように勧めています。異邦人の中にあっても、異邦人にふるまいなさい、神を知らない人たちの中にあってもあなたたちは異邦人にふるまうのだと言います。つまり、人の悪に対して悪で報いるのではなく、正しいことを行ってゆきなさいと。私たちの語ることが真実であり、神の前に喜ばれる正しい生き方、それがライフスタイルであるようにと、ペテロは私たちに勧めたのです。なぜなら、そのように生きてゆくなら、間違いなく私たちはこの世に対して大きな証を成してゆくことになるからです。家庭においても職場においても、学校においても友人の間でも、どこにあっても神に従う真実な生き方が証となるのです。

2：11から3：12を通して、この世における具体的な歩みについて教えています。特に2：11－17には、この国にあって国民としてどのように歩むべきかを教えます。二つ目に18－25節には「人に対する責任」です。しもべと主人の関係が記されていますが、人間関係を正しく築いて行く秘訣を教えています。三つ目は3：1－7、夫婦に対する教えです。伴侶に対する責任です。そして四つ目、3：8－12はこの世に対してどのようにふるまうのかを再び教えるのです。

今日は2：13－17から、この国に住むものとして、この国に対してどのような責任を負っているのか、そして、その責任をどのような態度で果たしてゆくのかを学んで行きます。

☆国民としての責任 13－17節

私たちの国日本、この国の政治や社会を見て私たちの口から出てくるのは愚痴や不平不満が多いのではないのでしょうか。ある人は別の国に生まれていたらよかったのにとか、別の国に移り住みたいとか言うかも知れません。確かに私たちの国にもいろいろな問題があります。それをすべてご存知の神が、私たちにどのように教えておられるのか、それが13節から記されています。

1. 従うという責任

13節「人の立てたすべての制度に、主のゆえに従いなさい。」と、「従う」という責任を負っているのだと教えます。「従う」ということばは軍隊の用語で、軍の指揮官に従うとか、服従するということばです。ペテロが言わんとすることは明らかです。上官に従うようにこの国に従って行くようにということです。「国」について見てゆきましょう。「人の立てたすべての制度に」とあります。この国における權威、法律のことです。「それが主権者である王であっても、また、悪を行なう者を罰し、善を行なう者をほめるように王から遣わされた総督であって、そうしなさい。」と詳しくその説明がされています。主権者である王、王から遣わされた総督に従うのです。彼らの責任は「悪を行なう者を罰し、善を行なう者をほめる」ことですが、現実にはそのように行われていないことが多々あります。私たちはこの国の法律、權威に、また、国を守っている警察に従う責任を負っているのですが、時に、例外があると思ってしまうことがありますか？国の政策や決定に不公平感をもち、どうしてこのような不完全な規則に従わなければならないのかと疑問をもつことは少なくないでしょう。しかし、ペテロがこの手紙を書いた当時を考えて見ましょう。この時のローマ皇帝はあの悪名高いネロでした。クリスチャンを迫害したその異常さは後世に伝えられています。それは彼の恣意的な行為であり、彼は異常性格者でした。しかし、このような主権者であっても「従う」という命令を教えるのです。なぜなら、それが神のみこころだからです。良き国民として国のリーダーを敬い、法律に従うことが神の求めておられること、神が喜ばれることなのです。

13節に「主のゆえに従う」とあるのは、クリスチャンはすべてのことを主のために行なっていくからです。パウロも教えています。ローマ13：2には「したがって、權威に逆らっている人は、神の定めにそむいているのです。そむいた人は自分の身にさばきを招きます。」と、神のみこころに反していると言います。また、テトス3：1、2には「あなたは彼らに注意を与えて、支配者たちと權威者たちに服従し、従順で、すべての良いわざを進んでする者とならせなさい。また、だれもそしらず、争わず、

柔和で、すべての人に優しい態度を示す者とならせなさい。」とあります。

また、13節に「すべての制度に」とありますが、「制度」ということばは新約聖書に19回出てきます。それらはすべてギリシャ語では「被造物」と訳されているのですが、ここだけは「制度」です。「人の」とは「人々の間に」ということです。制度の背後に神がおられるのだと言うのです。ローマ13:1には「人はみな、上に立つ権威に従うべきです。神によらない権威はなく、存在している権威はすべて、神によって立てられたものです。」と、神が主権者たちを置かれ人々の間に立てられたと言います。

15節からは、従順に従ってゆくとき神への証が成されて行くことが教えられています。「というのは、善を行なって、愚かな人々の無知の口を封じることが、神のみこころだからです。」。正しく主のみこころを行なって行くなら「愚かな人々の無知の口を封じること」になると言います。「愚かな人」とはみことばを拒み続ける人です。そして、「無知」とは故意に知ろうとしないことです。理解力が乏しいという能力のことではなく、自らの意志によって心を閉ざすことです。1コリント15:34に「目をさまして、正しい生活を送り、罪をやめなさい。神についての正しい知識を持っていない人たちがいます。私はあなたがたをはずかしめるために、こう言っているのです。」と、「神についての正しい知識を持っていない人たちは「知ろうとしない」のです。「封じる」とは口輪をすることです。この世の政策に対する抵抗（デモなど）は神が教えることではありません。イエスはそうしませんでした。人々はイエスに自分たちをローマから解放してくれる指導者として求めたのですが、イエスはそれをされませんでした。神のみこころに従われたのです。その一つの例を見ましょう。税金に対して、マタイ22:18～「イエスは彼らの悪意を知って言われた。『偽善者たち。なぜ、わたしをためすのか。納め金にするお金をわたしに見せなさい。』そこで彼らは、デナリを一枚イエスのもとに持って来た。そこで彼らに言われた。『これは、だれの肖像ですか。だれの銘ですか。』彼らは、『カイザルのです。』と言った。そこで、イエスは言われた。『それなら、カイザルのものはカイザルに返しなさい。そして神のものは神に返しなさい。』」 私たちはこの国を変えようとするのではなく、主を見上げ、主に希望を置いて「従う」ことによって、責任と義務を果たしてゆくのです。この社会にあって規律に従うこと、それが例えどんなものであってもです。国の首相のために、権威あるリーダーのために祈ること、神が立てられたからです。

私は20数年前、共産主義の国であったロシアに行ったのですが、その時、ひとりのクリスチャンに尋ねました。この国から外に出て自由の国に行きたいと思わないかと。彼の答えはこうでした。「そんなことは思ってみたこともない、神が置いてくださっているこの国で神の証し人として生きてゆくこと、それが自分の責任だ」と、強いインパクトを受けました。彼はみことばのとおり生きているのです。

しかし、例外があることを知らなければなりません。その法律、命令が明らかに神が禁じている場合、罪とされている事柄である場合です。出エジプト記1章には、イスラエル人がエジプトに行ったあと、ヨセフのことを知らない新しい王は多くなったイスラエル人を警戒して、「ヘブル人の出産のとき、もし男の子ならそれを殺すように」と助産婦に命じたこと、しかし、助産婦たちは「神を恐れ」てその命令に従わなかったことが記されています。これは正しいことです。またダニエル書6章には、ダリヨス王によって祈願の禁令が出されたとき、ダニエルは「その文書の署名がされたことを知って自分の家に帰った。……彼は、いつものように、日に三度、ひざまずき、彼の神の前に祈り、感謝していた。」と10節にありますが、それも正しいことです。使徒の働き4:19には「ペテロとヨハネは彼らに答えて言った。『神に聞き従うより、あなたがたに聞き従うほうが、神の前に正しいかどうか、判断してください』」とあり、5:27からはこのようにあります。「彼らが使徒たちを連れて来て、議会に中に立たせると、大祭司は使徒たちを問いただして、言った。『あの名によって教えるはならないときびしく命じておいたのに、何ということだ。エルサレム中にあなたがたの教えを広めてしまい、そのうえ、あの人の血の責任をわれわれに負わせようとしているではないか。』ペテロをはじめ使徒たちは答えて言った。『人に従うより、神に従うべきです。』」と。

2. それを行なって行く心の態度 16節

「あなたがたは自由人として行動しなさい。その自由を、悪の口実に用いないで、神の奴隷として用いなさい。」と、まず、「従う」ことの肯定的な態度を教えます。1) 自由人として行動しなさい、ということです。クリスチャンは自由人です。罪から解放されて自由なのです。だから、自分の意志で神の命令を守り実践して行こうとします。心から進んでイヤイヤでなく、です。そして、2) 自由を神の奴隷として用いる、のです。私たち救われた者は神のしもべですから、主人である神に喜んで無条件に従うことが神に喜ばれることです。否定的な態度は、その自由を悪の口実に用いないで、ということです。与えられた自由を罪のために用いてはならない、といのです。「口実」とは「おおう、ベール」で

す。

そして、17節に以上のまとめがあります。「すべての人を敬いなさい。兄弟たちを愛し、神を恐れ、王を尊びなさい。」と。1) すべての人を敬う。偏見をもって人を見ない、見下したり蔑んではならない、人はみな神によって造られたものだからです。2) 兄弟を愛する。クリスチャンたちが互いに愛し合うことです。自分がまず人を愛するのです。3) 神を恐れる。神への畏敬、神を神として崇めるのです。

4) 王を尊ぶ。再びこのことを教えます。国の法に従うのです。

⇒良き国民として歩むこと、そのために神は私はこの国に置かれたのだと覚えてください。